

(2班) 4 牧嶋心奈さん 玉陵中学校 「制服について」

玉陵中学校3年、牧嶋心奈です。

私たちは、制服のことについて提案します。

なぜ提案しようと思ったのか、2つお話します。

まず1つ目は、小学生の頃のブレザーと比べて、不便に思うことがあったからです。約2年間、セーラー服で過ごしていて、暑かったり寒かったりしたときの温度調節がしにくいことや、掃除などで動きにくい、体育の時着替えにくいとすることがありました。

2つ目は、私の経験からです。私は、あまりスカートが好きではありません。親には話したことがあります。今日一緒にいる染森さんは、学生服を着ています。制服の採寸の時から知っていました。染森さん自身、学生服を着ることに緊張はあったものの、同級生みんなが知っているという安心感が少しあったそうです。私は親にしか言っておらず、自分の友達に話した時に何と言われるかわからない怖さと、何より、セーラー服とのあまりの形の違いに勇気が出ず、セーラー服を着ています。

資料を作ってきました。ブレザーの制服は、トップスとボトムスで分かれています。上着はブレザー、ボトムスはズボンでもスカートでもどちらでも着ることができます。スカートを履きたくない人でも選択しやすく、学生服を着るよりはハードルが低いです。なので、制服の、ブレザー、シャツ、セーターなどは統一し、ボトムスだけズボンとスカートを選べるようにしてはどうでしょうか。玉名市内の学校すべてで、ズボンやスカートを選択しやすい制服の導入を提案します。

●資料(イラスト)

答弁者：教育長

玉陵中学校 牧嶋 心奈議員の「制服について（制服の提案）」にお答えいたします。

最近では、個性化や多様性を尊重する社会が望まれる中、制服の変更も含めた校則の見直しも全国で活発化しています。牧嶋議員の学校でも、先日、校則の見直しがされたとお聞きしております。校則の見直しの一つである制服の変更も、多様性を尊重して、牧嶋議員が提案されましたような、トップスはブレザー、ボトムスはスカートやスラックスなどいわゆる「ジェンダーレス制服」へと切り替える学校が多くなっているという情報も耳にします。

一方で、学校の制服、特に小・中学校の制服はその学校の地域の人々にとって、大変愛着と親しみのあるものです。また、ある学校では、校則改定の話合いをしている時に「この制服に誇りを持っているので変更したくありません」という意見が出たということも聞いたことがあります。このように制服はその地域の

伝統の一つであるといっても過言ではないかと思えます。

しかし、制服について考えることは多様性を尊重するためには大変重要なことに違いありません。

文部科学省が令和4年12月に公表しました「生徒指導提要」には、校則は「最終的には校長が適切に判断する事柄であるが、その在り方については、児童生徒や保護者等の学校関係者からの意見を聴取した上で決めていくことが望ましいと考えられる」と記されています。また、「学校や地域の状況、社会の変化等を踏まえ絶えず見直されなければならない」と書かれています。

以上のことから、校則の一つである制服を変えるためには、まずはそれぞれの学校で児童・生徒、保護者、地域の方々の意見をしっかりと聞き、検討を重ねることが大切だと考えます。

玉名市教育委員会も、制服については今後も各学校の実状を鑑み、各学校の意見を聞きながら検討をしていきたいと考えています。

【資料】

